2023年3月18日

立命館慶祥中学校 第21回卒業証書授与式に係る式辞

立命館慶祥中学校・高等学校
校長　江川　順一

ただいま、卒業証書を授与いたしました、第21期184名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。

３年前、私がここに立ち、皆さんをお迎えした入学式では、先生方が、皆さん一人一人の名前を呼ぶことができました。しかし、その後は、政府による緊急事態宣言が発令され、４月末まで臨時休校。５月はオンライン授業、６月は分散登校、７月にようやく通常授業となりましたが、立命祭は中止、北海道研修も中止。それからは、マスク着用、黙食、ソーシャル・ディスタンスなど、コロナ対応の生々しい記憶ばかりが残る３年間でした。

慶祥中での３年間をどのように過ごすのか。中村倫生学年主任が掲げた学年スローガンは、「自主自立」でした。皆さんは自主自立学年として、「自分の考えをしっかりと持ち、周りと協働し、自分の力で独り立ちできる人」を目指したのです。あなたは、この３年間で「自主自立」を成し遂げることができましたか。あなたは、「社会に通用する 15 歳」を志し、仲間とともに「協働」して、あらゆることに「挑戦」し、誰かのために「貢献」することができましたか。

３年前の中１。

コロナによって、北海道研修同様、立命祭が中止になりました。しかし、年度末の２月、学年団は「学年立命祭」を企画し、段ボールアート制作に挑みました。段ボール特有の素材を活かし、熊・鹿・フクロウ・鮭・狼の制作を通じて、アイヌ文化について学びを深めたのです。展示終了後には、コンポストを用いて段ボールを堆肥リサイクル。学年団の、立命祭を決して諦めないという強い決意が、「学年立命祭」として、前例のないクラス展示企画に結実したのでした。

２年前の４月。あなたは中２となりました。

10 月に実施した京都研修は、コロナ感染者数の大きな山の狭間にあって、絶妙なタイミングで実施できました。私立も公立も、あらゆる研修が中止や規模縮小となる中、慶祥は断念せずに完全実施しました。テーマは「世界に誇れる日本を探す旅」。京都で活躍する素晴らしい方々を訪ね、９コースに分かれてフィールドワークを行ったのです。コロナ禍が直撃した京都。天龍寺も嵯峨野も嵐山も、どこに行っても観光客は皆無。あなたは、まるで京都を独り占めしたかのような気持ちになりました。はしなくも、そんな京都に出会えたことも、貴重な経験でした。

１年前の４月、あなたは中３となりました。

７月の立命祭は、生徒会長の沢田侑叶さんをはじめとする生徒会が踏ん張って、３年ぶりに中高合同開催に漕ぎ着けました。取り組んだのは演劇。監督・脚本・役者・裏方と、それぞれが異なる役割を果たすこと

立命館憲章：「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、
正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間の育成」

で、人との関わり方を学びました。思い出してください。あなたは、思い通りにならないことを前にして、疲労や焦りから、思わず感情的な言動となりがちな自分を、どのようにコントロールしましたか。あなたは、演劇への取組を通じて、困難な局面で、仲間とどのように関わり、どのように折り合いをつけていくかを学んだのです。あなたは、支えてくれた仲間や家族への感謝の気持ちを込めて、全員が「それぞれのベスト」を尽くし、見事な舞台を完成させることができました。

１ヶ月前の２月、あなたは、ニュージーランドの大地を踏みしめていました。

３年ぶりにNZ研修を復活させたのです。日程は２週間。全員が無事帰国できました。NZ研修にかける学年団の教員の思いは格別でした。自主自立学年は、「NZで輝く21期生となる」をスローガンにして、３年間の学習の成果を存分に発揮する場として、NZ 研修を位置づけたのです。あなたは、日本語が通じない異文化の真っ只中で、不安に押しつぶされそうになりながら、ホストファミリーに自分の意志を全身全霊を傾けて伝え、意思疎通を図りながらいくつもの高い壁を乗り越えることができました。ホストファミリーとの別れには、熱いハグと涙、そして感謝。ホストファミリーへの感謝に加え、あなたの日常を支えてくれていた日本の家族への感謝でもありました。このことは、あなたにとって、絶大なる自信となりました。そして、あなたは、NZにおいて「まぶしく輝く21期生」になったのです。

さらに、５日前、中学グローバルフェスティバルを開催しました。

このFESの運営は、自らやりたいと手を挙げた実行委員16名によって行われました。石川壱朗さんが委員長として運営を仕切りました。アリーナ・アッセンブリ・コタンの３会場で、セッション・スピーチ・アトラクションの３部門に分かれ、ポスターや電子黒板、大型スクリーンを駆使して発表を行いました。中１から中３まで、総発表件数は、のべ120件。英語暗唱・スピーチはもちろん、自然科学系や社会科学系の研究発表から、楽器演奏・ダンスまで。慶祥中にみなぎる活気の原点が何であるのかが理解できた瞬間でした。これは凄かった。あなたは、ここでも、自分の考えをしっかりと持ち、自分の得意な手段を通じて、それを仲間に伝えました。また、発表する仲間を、裏方としてしっかり支えることができました。

コロナ禍に席巻されたこの３年間、授業も行事も、学校教育すべてが制限を受けました。けれども、あなたは、うつむくことなく真っ直ぐに前を見て、仲間とともに苦労を分かち合い、心を一つにして困難に立ち向かい、乗り越えてきたのです。

立命祭、京都研修、NZ 研修、グローバルフェス。あなたは、コロナ禍でも、学びを止めませんでした。コロナ禍による３年間の制約は、かえって「社会に通用する15歳」を生み出す原動力となりました。思い通りにはならない困難こそが、人を大きく成長させるのです。

３年間続いた学年通信『自主自立』は、今日で56号目の発刊となります。この３年間、中村主任と学年団は、自主自立学年として、仲間とともに「協働」して、あらゆることに「挑戦」し、あなたとあなた以外の誰のために「貢献」できますか、というメッセージを、学年通信に載せて送り続けてきました。

私からは、最後に、改めて問いたい。

「あなたは誰のために学び、誰のために生きるのですか？」

立命館憲章：「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、
正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間の育成」

この答えを探し求めることが、これから長くて果てしない道を歩むあなたをしっかりと支え、あなたを活かし、あなたが生きる「人生」を豊かにするのです。立命館慶祥の卒業生としてひたむきな眼差しをもち、胸を張り、そして自信をもって、先の見通せない不確実な世界に、満を持して船出をしてほしいのです。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、本当におめでとうございます。本校の教育活動へのご理解とご支援に対しまして、深くお礼申し上げます。

皆様は、この 15 年間、わが子に限りない愛情を注ぎ続けてこられました。何も持たずに産まれてきたのに、溢れんばかりの愛情を手にしたわが子。2、3 時間おきに、おなかが空いては目を覚まし、おなかが一杯になっては寝ていたわが子。お座り、ハイハイ、つかまり立ちと、日々の成長を実感できたわが子。どうしても泣き止まずに途方に暮れたこと、急な発熱で夜通し心配したこともあったでしょう。わが子が健やかに育つことだけを祈った毎日。

そして、実は、本人よりもずっと不安だった、生まれて初めての中学受験。歓びの合格を手にしたわが子の、あこがれの慶祥中での生活。この３年間、多感な時期であるがゆえ、心配の種は尽きなかったことと思います。

今、皆さんの前に座るわが子は、多くの困難を乗り越え、立派に成長されました。そして、中学校３年間の学業を終え、両親への深い感謝の思いとともに、晴れの日を誇らしげに迎えておりますことを、保護者の皆様にしっかりと報告したいと思います。

それでは、希望に満ちた出発の日に当たり、皆さんの前途に幸多からんことを心から願っています。あなたは、「未来を信じ、未来に生きる人」です。だからこそ、未来に向かって胸を張って欲しい、そのことを祈念して、私の最後の『式辞』といたします。